



2002年 4月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

2002年4月
第 31 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
 〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
 発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
 編集責任者 宇田川 幸 子



目 次

EIBRK による漢点字変換のための入力マニュアル（4）・・・・・・・・ i
 連載「点字から識字までの距離」（28）（山内 薫）・・・・・・・・ 1
 点字について（小池上 惇）・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 点字の読みづらさと漢点字の触読について（15）（岡田 健嗣）・・・ 8
 ご報告とご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 漢文のページ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
 イラスト版「漢点字ってどんな字？」（30）・・・・・・・・ 18
 横浜漢点字羽化の会規約・・・・・・・・・・・・・・・・ I



言葉と身体(一)

前々回『子どもはことばをからだで覚える』を紹介した最後に「乳幼児のためのお話会」のことに触れたが、今回はまず、この催しについて紹介したい。というのも、このところ「言葉」と「身体」に関する問題を折に触れて考えるからである。最近ベストセラーになっている『声に出して読みたい日本語』（斎藤孝 草思社 二〇〇一年）などとの関連で、この問題を考えてみたいと思う。

正式には「小さい子どものためのお話会」というこの催しを始めたのは、三年前の九月からで、毎月第一木曜日の午前中に三〇分程の時間で行っている。図書館の近くに新しい公園ができ、平日の午前中には、小さな子どもとお母さんが何組も遊んでいる様子を見て、このたくさんの親子カッ

プルを図書館に呼び込まない手はない、というのがお話会を始めた直接の動機だった。始める前には小さなビラを作り、一週間ほど公園のお母さん方に配って歩いた。区内で活動している「つくしんぼ」というお話ボランティアの方々が協力して下さることになり、お話だけではなく、パネル・シアターやエプロン・シアターなど多彩なプログラムでお話会を始めることになった。会場は、通常学習室となっている部屋で、八〇席余りある椅子と机をすべて取っ払い、じゅうたんを敷いて座る場所を確保し、正面を舞台に見立てて、お話会のテーマに沿ったディスプレイを施す。初日に、フタを開けてみると数十組の親子がお話会にやっできてくれた。

参加者の中心は二・三歳の幼児とそのお母さんで、今まで行ってきたお話会のように、年長児や小学生が相手なら、絵本を読んだり、紙芝居をすればよく聞いてもらえたが、一・二歳の乳幼児に對してそれだけでは、なかなか集中して聞いてもらえない。そこで、絵本を大型紙芝居にしたり、パネル・シアターにしたりと工夫を凝らすことになる。絵本『ねずみくんのチョッキ』（なかえよし）を作、上野紀子絵（ポプラ社）を行ったときに

は、拡大コピーした各場面を厚紙の貼ったものと実物の赤いチョッキを箱の中に入れ、お話を始める前に演者は「この箱の中に何が入っているでしょう」といっておもむろに箱を開け、あかいチョッキを取り出して自ら身につける。そして、「これから、ねずみくんのチョッキというお話を始めます」といって最初のページ絵を見せ「おかあさんが あんで くれた ぼくのチョッキ ぴつたり にあうでしょう」とお話を始めると、前に座っていた子どもが「うん、にあう」と即座に合意の手を入れてくれる。

エプロン・シアターのように動きがあったり、手遊びのように子ども自らが体を動かすものほども受けがよい。「いなばのしろうさぎ」の紙芝居をやったときには、小さなうさぎのぬいぐるみを紙芝居舞台の袖から出して語り手とし、毛をむしられ塩で苦しんでいる場面では、紙芝居舞台の前にそのぬいぐるみを寝かせ、自宅近くで取ってきた蒲の穂を用意して、演者が大国主命に成り代わってぬいぐるみをなでるといふパフォーマンスを行った。そしてお話会の参加者全員に蒲の穂を一本づつおみやげにあげた。こうした実物を使ったり、おみやげにするというのがこのお話会の一

つの特徴になっている。カラスウリ、ジュズダマ、ツクシ、ドングリ、麦の穂など季節の植物や実などを出来るだけ集めてきておみやげにしている。都会では、すでにカラスウリでさえ知っている若いお母さんはなく、物によっては「どこで買ってきたんですか」と質問されてしまう。

ある時パネル・シアターを行っていた演者が、パンダの乗った車が森に出かけるといふ場面で、「森へ行きましょう 娘さん」という歌の出だしをちよつとハミングしたことがあった。すると、いままできよろきよろ落ち着いて聞いていなかった幼児が急にパネルに集中した。以前からも歌や音楽をなるべく取り入れるように工夫して、ちよつとした出し物には何でも簡単な歌詞と曲を付けてきたが、私自身は舞台の裏でヤマ



星の特集の終わりで子供達にモールを持たせ、キラキラ星の唄に合わせて、モールを振ってもらう。

ハのポータ・サウンドというキーボードを弾く役目なので、音楽に対して子どもたちがどんな反応を示すか、なかなか眼にできないでいた。しかし、この時は観客の側からパネルを見ていたので、その時の子どもたちの反応ぶりに驚いた。この乳幼児のためのお話会の大きな要素が、先ほどの「物」と、もう一つ「音楽」にあるということ。をその時に確認できたように思う。

またある時、「からだのなかの音をきいてみよう」（井上恵理『月刊クレーン』二〇〇〇年四月号）という曲に合わせて、音を出して子どもたちに何の音か当ててもらおう出し物を行ったが、目の前で例えばくしゃみをしたり、手を叩いたのでは面白くないので、黒い幕の後ろで職員が音を出し、その音が何かを当ててもらおうことにした。その歌は「体の中って動いてる、動いてる、動いてる、体の中って唄ってる」と唄った後に音を出し「ちゃんちゃん」といつて終わる歌だが、例えば手を叩く音、うがいをする音、おならの音などを出してみた。しかし、その音に対して会場のどの子どもも、ただきよんとしているだけで言葉を発する子どもは誰もいなかった。鼻をかむ音を出したときには、幕の後ろからくしゃやくしゃの鼻紙

をこちらに投げてもらったけれども、それでも言葉が発した子どもはいなかった。うがいの音の時には思いあまつて幕を取ってしまったが、そこでやつと何が行われているのか理解したという顔を子どもたちはした。「ちよつと難しすぎたかな」とお母さん方と話したが、後で思い返してみると、もし単に難しいのであれば、間違えであつても何らかの反応があつてもよかつたはずなのに、全く言葉が発せられなかつたということは、おそらく三歳未満の子どもたちにとつて言葉というのは非常に具体的なものであつて、音だけから何か言葉を思いうかべるという段階にまで至つていないのではないかと考えた。

『がたんごとんがたんごとん』（安西水丸さく 福音館書店）という幼児向きの絵本を取りあげた時には、そこに登場する真つ黒い蒸気機関車と客車三台を段ボールの箱でつくり、舞台の周りに机を並べて線路に見立て、線路の端に車庫を作つた。お話を始める前には汽車を車庫に隠しておき、「さあ、これから、がたんごとんがたんごとんというお話をします。みんなで手を叩きなごら、がたんごとん がたんごとんと言うと、この中に入っている乗り物が動き出します。では、一

緒に、がたんごとん がたんごとん」と、手を叩いて拍子を取りながら、子どもたちに「がたんごとん がたんごとん」と言ってもらい、おもむろに車庫から汽車を出し、ゆっくり走らせる。「のせてくださいー」はじめの乗客は哺乳瓶。箱で作った駅でスプーン、フォーク、バナナ、リンゴ、ネコ、ネズミが次々に客車に乗り、終点はテーブルの上という単純な話だが、手を叩きながら「がたんごとん がたんごとん」と言ってくれる子どもたちは集中して聞いてくれていた。中には立ちどももいたりするが、皆「がたんごとん がたんごとん」という言葉の調子に乗ってくれているのが分かる。リズムカルな言葉と手拍子が組み合わせられることによって、言葉は身体感覚のなかに取り込まれるように思う。

エプロン・シアター『おおきなかぶ』を行った時にはお母さん方が乗ってしまい、一歳にも満たない赤ちゃんを膝の上に抱いてかぶに見立ててしまつて、かぶを抜こうとする時の呼びかけ「うんとこしょどっこいしょ」というところで、掛け声と共に赤ちゃんを引っ張り上げるうごきを繰り返していた。まだ、言葉を獲得する以前赤ちゃんに

とつて、お母さんの膝の上で自分が揺すられながら「うんとこしょ どっこいしょ」というお母さんの掛け声を耳にするという体験は、とても大きな体験であるに違いないと思う。

音楽と身体の動きということでは、『ねこのたいそう』という紙芝居をやったとき、体操の動きに合わせて歌詞と曲を作り、実際に子どもたちにねこの体操をしてもらった。(丁度こ



ねこの本特集で、子供達と一緒にねこの体操をしているところ。背景のディスプレイも猫にしてある。

の日は雨で参加者が少なかつたために、体操するスペースが十分にあつた)

以上のように乳幼児のためのお話会では、子どもたち自身が身体を動かすという要素を加える事によって、盛り上がりを増すことが体験上分かつてきた。つまり、このお話会の大きな要素が、「物」と「音楽」そして「身体の動き」という三

つから成り立つのではないかと感ずるようになってきている。

最初に参加してくれていた子どもたちは、幼稚園や保育園に行く年齢になって、平日の午前中には参加できなくなり、四月を迎えると新たな参加者が増えるようになるが、特に最近では半数以上が一歳前後の赤ちゃんで占められるので、より一層こうしたり方が求められてきている。そこで、一年ほど前からはお話会のはじめには、まず始めに全員で「いないいないばあ」をやり、最後には簡単なわらべうたを唄って終わりにするというプログラムで構成している。



この回は馬の特集だったので、お話会の始めに馬のお面を作っていないいないばあをおこなった。

みたいと思う。

【名詞や副詞に（する）が続く場合は、（する）の前を区切って書くことを原則とする。】

いつも、東洋医学の連載をお読みいただき誠にありがとうございます。今回は、都合により、一回お休みをいただき、少し点字について書かせていただきます。と思います。

一点字表記法（かな点字）の改定

今年の四月から、多くの所で新しいかな点字の表記法が使われるようになりました。最も大きく変わったのは、「する」の切れ続きのことです。新しい表記法では、次のように書かれています。



例 ベンキョー スル（勉強する）、オヤスマ

スル（お休みする）、イツシュー スル（一周する）、ビックリ スル（びっくりする）。

（する）を続ける場合として次のような場合がある。

① 一字漢語等に（する）が続いて音韻が変化したり連濁する場合

例 タッスル（達する）、セツスル（接る）、

メイズル（命ずる）、シンズル（信ずる）

② 一字漢語に（する）が続く場合は一続けに書くが、（する）の前に助詞（を）を挟むこ

とができる場合は区切る。

例 カンスル（関する）、ハンスル（反る）、

ロースル（労する）、トク スル（得する）、ソンスル（損する）

（する）は今までは、前の言葉に続けることが多かったので、新しい表記法には、少し違和感を感じます。

このほかの改定としては、特殊音、伏せ字、情報処理記号などで墨字表記の多様化に対応したところもあるようです。

二 分かち書きについて

分かち書きには二つの原則があります。

① 自立語は、その前を区切る。

② 自立語と付属語は続けて書く。

これだけを見ると、かな点字の規則は簡単なような気がしますが、実は、自立語の中でも区切つて書かなければならないことがあります。これを、「自立語内部の分かち書き」といいます。実は、この部分が頻繁に改定され、点訳者を戸惑わせています。

例えば、点字図書館というのは一つの言葉ですが、その中に「点字」と「図書館」という二つの自立可能な部分を含んでいるので、点字表記法では、テンジとトショカンを区切って書きます。以前には、なるべく自立語は続けて書く傾向が強く、生徒会長、経済学者などは続けて書いたのですが、今では、ケイザイ ガクシャ、セイト カイチャーなどと書き表します。

点字表記法を視覚障害者が読みやすいように見

直すことは、ある程度必要なのでしようが、それがあまり細かい内容になると点訳ボランティアも視覚障害者自身も点字から離れていくのではないかと心配されます。

三 点訳物の利用について

つい最近まで点字を読む方法は、紙に書かれた点字を触読する方法に限られていました。ところが、最近では点訳データをパソコンに取り入れ、ピンディスプレイで触読したり、音声化ソフトでその内容を聞いたりする方法も利用されています。

点字データの音声化については点字本はかさばること、高齢失明者が増え点字触読の苦手な人が増えてきたこと、音声化ソフトが充実し、耳で聞いても違和感が少なくなってきたことなどにより、その活用が急速に増えているとのこと。しかし、点字は触読のための文字であり、間違えず。自分で確実に確認できる唯一の文字である点字を大切にしていかな



ければならないと思えます。

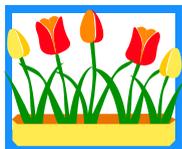
四 点訳技能検定について

昨年一月と十一月に東京と大阪で点字技能検定試験が行われました。合格率は第一回目が三パーセント、二回目が二〇パーセントと非常に低かったようです。点訳をする人は障害者についての知識も必要なことはそれなりに理解はできますが、資格試験の中にそれを取り入れなければならぬ理由がよく分かりません。全国には、数万人の点訳ボランティアがあり、貴重な点訳データを提供してくれています。その中には、多少間違つたものもあり、改善が必要なことは分かっていますが、必要以上に難しい試験を行うのもどうか思っています。最近、ビジネス点字検定試験が話題になっていますが、そのテキストの点字表記に誤りが非常に多いとのこと。それは、ある建設会社のオーナーが計画しているもののようにですが、この二つの試験のギャップは一体何なのでしょうか。

五 漢点字について

文章の意味を理解しながら読むためには、仮名点字ばかりでなく、漢点字も是非取り入れていかなければならないと思います。統合教育が進み、視覚障害者が普通学校で勉強するとき、漢字の知識が必ず必要になってきます。そんなとき、漢点字が大いに力を発揮すると思います。点字板や点字タイプライターで仮名点字を書く感覚で漢点字が書けるようになれば本当に漢字が身に付いているとはいえないのかもしれませんが、そのためには、小さいときから繰り返し漢字に接し体で覚えていかなければならないと思います。

晴眼者には、漢点字は覚えにくい、中途視覚障害者には識別しにくい、など困難な点はたくさんありますが、これからも漢点字の普及には皆様方と共に努力していきたいと思っています。



点字の読みづらさと

漢点字の触読について(十五)

横浜漢点字羽化の会 代表 岡田 健嗣

六 日本語点字の成立とそれが残したも (承前)

日本語点字委員会(つづき)

「前々号・前号と、本誌の読者のご寄稿の、二四号(二〇〇一年二月)に掲載させていただいた記事『漢字教育と日本語点字委員会』に依拠しながら、日本語点字委員会(以下、日点委と言う)の、漢字と視覚障害者に対する姿勢を考えて来ました。

この記事は、昨年初冬に催された集会の席上で、日点委の三名の委員の方が、質議に答える形で、視覚障害者と漢字教育について、初めてその見解を公にされたことを紹介されたものです。しかし予想されたこととは申せ、それは大変肯定的なものであったことに、著者は、強い落胆を感じておられました。

私は前二回をお借りして、この記事に紹介された、日点委の委員お三方のうちのお二人のお考えを、学業を盲学校で修めて、今日も点字を使用し続けている者の立場から、解釈し分析してみました。

今回は、最後のお一人のご見解に触れて、その総括したいと思います。その前に、前お二方のご見解を、簡単に振り返ってみましょう。

最初の委員の方のご見解は、日点委は私的な団体であるので、公的な責任を負う立場にはない。

日点委は、仮名点字の表記の研究・普及を図つて来たもので、その限りの責任は果たさなければならぬが、点字で漢字を表記することは考えていないし、その責任も存在しない、というものでした。

お二人目の委員の方のご見解は、漢点字の普及は遅々として進まないどころか、後退しているありさまである、それは漢点字自体に、その普及を妨げる欠陥が内在するからであろう、また、仮名点字が百年以上続いているということは、それ自体、仮名点字の優秀性を物語っているもので、視覚障害者の文字としては、この仮名点字に勝るものはない、というものでした。

このお二人のご見解に関する私の考察は、二回に渡って述べましたので、再度の議論は控えることにします。ご関心をお持ち下さる皆様は、是非バック・ナンバーをご参照下さい。

さて、最後の委員の方のお話です。

お三方目の委員のご見解は、左の通りです。

《盲学校では、すでに漢字の部首、音訓、用法などを教えており、メールなども多少の誤りはあつても、自由にそして盛んに使っている。》

前号で取り上げたお二人目の委員のお話にもありました。漢字の部首や読みは、既に充分教えているから、これ以上取り上げる必要もその考えもない、ということです。果たして本当にそうなのでしょうか。

私の経験と観察からは、残念ながらそのような結論には至りません。社会の一員として仕事をし、生活しようとする時、社会から様々なものごとを求められます。その多くは盲学校にいる限り求められないもので、しかもその殆どが言葉を用いての人間関係作りに関するものでした。そのよ

うにして一つ一つの言葉が、ずっしりと重みを持って眼前に現れるのでした。

私たちが言葉を自らのものにして使いこなすまでには、それなりのプロセスを踏まなければなりません。そのプロセスについて、少し考えてみましょう。

まず音声言語、つまり話し・聞く言葉の獲得です。この音声言語は、一般には、生まれ落ちたその時から、周囲からの刺激を吸収して、際だった努力を自覚することなく獲得されます。

つまり本人にしてみれば、気づいた時には周囲の人、両親や兄弟、祖父や祖母、近所のおじさんやおばさん、おにいさん、おねえさんたちと、当然として話をしていくのです。勿論いろいろな環境があつて、それぞれに違った育ち方をするのですが、一歳、二歳、三歳の子供達の言葉の数や認識には、一つの共通する標準が見出される程度に、生育の水準の幅が決まっています。

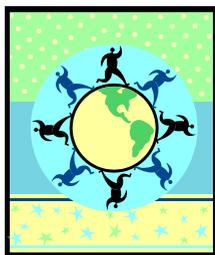
一歳の子供は一歳の、三歳の子供は三歳の理解度を示して、判断力も同様の水準を示すのです。



この地球上には様々な人々が暮らしていて、多様な言葉が使われています。

その言語そのものは、生得的に獲得されるものではありません。子供は、生後間もなく、周囲からの言語的な刺激を受けて、「マーマー、バーバー」という喃語や、それに伴う手足の運動を始めて、周囲とのコミュニケーションのフィード・バックを開始します。これを通して、音声言語が構築されて行くのです。そのフィード・バックを用意する機能が、人類に共通する生得として存在していると考えて間違いないでしょう。音声言語は、このようにして理解力と判断力を養いながら、さらにフィード・バックを重ねて成長して行くのです。

もし音声言語の獲得に何らかの障害が認められる場合、本人にだけその因を求めるとはできません。このように、音声言語は努力を自覚することなく獲得されるのですから、そこに障害が生じたとしても、本人の努力のみによってその障害を克服するというのは、その子供に、大きな負担を負わせる結果になるでしょう。



このようにして獲得された音声言語と異なり、文字言語は、全く違った方法で獲得されます。

当然のことですが、文字言語は、音声言語が獲得されて後、初めて獲得されます。文字言語は、その人が獲得して来た音声言語と対応されながら、言語化されて行きます。

人は通常、幼児期から文字に親しむことになっていきますので、その時期の音声言語も、大変幼いのです。そこで一般に、音声の言語の発達と、文字言語の習熟との落差を感じることなく済んでいきますが、その二つの獲得の間には、大きな違いがあります。

文字言語の獲得は、努力なしには成り立ちません。教育課程があつて、教育方針に従つて教示され、努力しながら試行錯誤するのです。

その課程を通過することなしには、文字言語を獲得することはできません。勿論この課程も様々で、多種多様なバリエーションを含んでいます。

人類が言語を使用し始めたのは、今から五万年ほど前のことと言われています。



す。それに対して、文字を使い始めたのは、せいぜい五千年前、現在の文字の使い方に添って遡れるのは、二千五百年程度です。文字の使用は、音声言語に比べて、その歴史は甚だ浅いのです。しかし文字は、その発生から言葉そのものの質を変えました。

現在の私たちにとって、二千五百年を越えて文字を使わない世界を、どのように想像できるでしょうか。音声言語だけの世界と、文字の出現した世界とは、如何に異なっているか、何とか想像力を働かせてみましょう。

音声は、一過性です。一度言つてしまえばそれきりです。従つてその対象となるのは、集団か、せいぜい一人の他者です。すなわち、当時の人々は、現在では考えられないような集団性のもとに生活していたに違いありません。

それに引き替え文字は、繰り返し読むことができます。それは、記憶力とは比較にならない程の記録の容量を提供してくれました。それは正に、情報の誕生を意味したのでした。

またもう一つ大きな変化をもたらしました。それは、自ら書いた文字を、自ら読んだということです。そこで図らずも、自分自身知らなかった己

を、発見してしまつたのでした。このことは、自己を見る目を獲得することと、その目で他者を見るということを知つてしまつたことをも意味しているのです。後年、個人と社会と呼ばれるものが、このようにして、文字によつてもたらされたのでした。

ここでもう一度先の日点委の委員の方のお話に戻りましょう。

現在盲学校では、漢字の形や、音や訓について教えている、決して漢字について教えることを怠っているのではない、十年、二十年前よりずっとよくなつてゐる、とおっしゃつておられます。

しかし、一般に文字と言へば視覚に訴えるものを指してゐます。それは視覚障害者には使える文字ではありません。視覚障害者にとつては、文字と呼ぶことさえ躊躇したくなります。視覚障害者が文字として使えるものは、触覚に訴える触読文字しかありません。

また文字は、普段から読み書きして親しむことなしには、自らのものとはなりません。その意味で、教育の現場で、読み書きできる文字、触読文字を教えていないということは、やはり、教えて

いるとは言い難いと言わない訳には参りません。もう一つ、多少間違ひはあつても、メールなどで積極的に楽しんでゐる、というのも、赤面を禁じ得ない発言です。

間違ひを間違ひと認識できず、また間違つても指摘されない、これが現状で、本当の意味でのバリア・フリーの恐ろしさに、未だに気づいていないことを思われます。

ここに取り上げた記事にもありましたように、また、一昨年筑波大学附属盲学校をお訪ねした折りに、国語科の塩谷先生のお話にもありましたように、盲学校では漢点字は教えない。力のある者は独習すれば習得できるのだから、それで充分である、と言うのが盲学校の現姿勢です。

また、別の盲学校のある先生に、漢点字の教育についてお願いをした時は、カリキュラムにないからできない、自身も勉強する意志はない、生徒で漢点字を勉強したいという意欲のある者があれば、そちら（羽化の会）を紹介するから、教えてあげて欲しい、と言われました。



勿論本会は活動の目的の一つに、漢点字の普及を謳っております。従って喜んで漢点字をお教えします。大勢の皆様は漢点字の素晴らしさを知っていただくことは、本会並びに私にとって、望外の喜びに他なりません。

しかし、盲学校の先生のお口から、ご自身は手を染めず、本会を紹介するから頼むというお言葉を聞くのは、決して嬉しいこととは言えません。残念ながらこれが、盲学校の先生方の現在のお姿なのです。

*日本点字委員会編集・発行の「日本点字表記法二〇〇一年版」に、漢点字と六点漢字が、やや詳しく紹介されています。

これまで同書では殆ど取り上げられませんでした。

(今回は、六点漢字について考えます。)



報告とご案内

一 平成十三年度の賛助会費、大変ありがとうございました。うございました。

以下の皆様から、賛助会費を頂戴致しました。心より御礼申し上げます。有効に使用させていただきます。(順不同)

大滝 正夫様	河村 幸男様
関口 常正様	田崎 吾郎様
松村 敏弘様	佐川 隆正様
飯田 みさ様	田中 秀臣様
木村 多恵子様	佐々木 信様
武田 幸太郎様	

二 『新々百人一首』を、横浜市中央図書館に納入しました。

前号で紹介しました、丸谷才一著『新々百人一首』(新潮社)が完成し、横浜市中央図書館に納入しました。

地方の読者の皆様は、館々貸し出しの制度をご

利用いただけば、お楽しみいただけます。是非ご一読下さい。

内容は、本誌三〇号（前号）をご参照下さい。

三 日本漢点字協会のビデオとホームページについて。

吹田ケープル・テレビで製作・放映された番組のビデオ・テープ「特集七十七才の情熱く漢点字と歩んだ三十四年」が、日本漢点字協会から貸し出されています。

この番組は、川上泰一先生と奥様が二人三脚で、献身的に漢点字の開発と普及に努められた歩みを、ドキュメントにまとめたものです。昨年（二〇〇一年）十一月に同局から放映されました。またこの番組は、NHKの、ケープル・テレビ・自主製作番組部門の〈奨励賞〉を受賞されました。是非ご覧下さい。

同協会の連絡先は、

〒565-0875 大阪府吹田市青山台三ー四十一ー九

川上リツエ方

日本漢点字協会 (Tel.06-6831-4565)

またここにもご紹介されておりますように、同協

会では、ホームページの運営を始めました。皆様のアクセスをお待ちしております。

URLは、<http://www.kantenji.net>です。

四 点線文字の資料について。

東京の漢点字グループの開発しました、「点線文字」の資料が、一部完成しました。本会オリジナル編集の『横浜通信』の付録として、読者の皆様にお届けします。

その内容は、漢字を構成する十の画と、その例を点線文字で表したものです。点線文字は、点線で図形を描くためのソフトウェア、EODORを使用しました。

「十の画」は、宮下久夫（故人）著『十の画で漢字が分かる』（たろうじろう社）に報告されたものです。同書は、宮下先生が、初等教育の漢字の指導に当たって、漢字に対する新しい分析法を構築されて、それを著されたものです。そのキーワードとなるのがこの「十の画」と「画と部首への名付け」です。

私たちは漢点字を学んで参りましたが、それだ

「十七頁へ続く」

漢文のページ

『論語』

(学而篇)より

学^レ而^レ時^ニ習^フ之^ヲ。不^ニ亦

説^{ベシ}乎^{カラ}。有^リ朋^ニ自^リ遠^方一^ニ来^{タル}。

不^ニ亦^一樂^シ乎^{カラ}。人^ニ不^シ知^ラ而

不^レ愠^ミ。不^ニ亦^一君^子一^ニ乎^{カラ}。

学^{トモ}びて時に時に之を習^フう。亦^{またよろこ}説^ハばしからずや。
朋^{とも}有り遠方より来^ルたる。亦^{またよろこ}樂^ハしからずや。人^{ひと}知らず
して愠^{うれ}みず。亦^{またよろこ}君子ならずや。

時^{トモ}常に。機会あるたびに。説^ハ悦^ハに同じ。心中による
こびを感じて満足する。自^レ「より」と読み、起点を示
す。

「不亦…乎」||「また…ずや」と読む。反語の形で強い肯

定を示す。「なんと…ではないか」の意。

「人不知而不愠」||「人不知(ひとしらず)」は、他人が自
分の学問や才能を認めてくれない。「而」はここでは逆接の意
で「そうではあつても」。「不愠(うらみず)」は、「いきどおら
ず」と読む説もある。

古典をそのまま受け入れ、学ぶ意欲の起こるたびごとに
反復復習する。(そうすると、理解が深まり)何とうれしい
ことではないか。自分と同じく学問に志す友人が、遠方から
もやってくるようになる。なんと楽しいことではないか。自分
の学問を世間が認めてくれないこともあるが、それでも心に
不満を持つたりはしない。なんと立派な人物ではないか。

不^レ患^ミ三^ニ人^ノ不^レ己^ヲ一^ニ知^ラ。

患^フ不^レ知^ラ人^ノ也^{ナリ}。

人^{おのれ}の^れこ^をを知らざるを患^{うれ}えず。人^{ひと}を知らざるを患^{うれ}う。

人が自分の能力を認めてくれないことは気にすることでは
ない、むしろ自分が他人のすぐれた点を知らずにいる方が問
題だ。

学ビテ 而 時ニ 習フ

之ヲ。 不 亦 説バシカラ

ラ 乎。 有リ 朋 自リ

遠 方来タル。 不 亦 樂

シカラ 乎。 人不シテ 知ラ

而 不 慍ミ。 不 亦 君

子ナラ 乎。

不 患へ 人之 不ル

ヲ 己ヲ 知ラ。 患フ

不ルヲ 知ラ 人ヲ 也。

『論語』: 孔子の没 (B.C.479) 後、門人達が孔子の言行や門人の言葉などを収録し、漢の初めごろ (B.C.2世紀) に集大成されたと考えられる。「学而」「為政」など二十篇の篇名は、各篇の初めの語句をとっている。「子曰、学而時習之…」は論語の冒頭の有名な一章。

※『〈第一学習社版〉古典一・教科書学習』 (朋友出版) 他を参照しました。

「十四頁より」

けでは漢字と文章の理解を深めるのに困難を感じて参りました。そこで漢字のパターンを勉強しようとして努力しますが、適切な指導を受けられない現状では、やはり大きな壁に直面します。そこでこの宮下先生のお考えを知り、それに添って勉強してみますと、それまでの鬱屈が徐々に氷解して行くのに気付かされます

この宮下先生の論の特徴は、漢字を視覚的に覚えることではなく、構造として理解するところにあります。ある漢字を説明するのに、その形をペンや指でなぞってみせるのではなく、画や部首の配置関係を述べることでできると言うのです。

既に同書は絶版となっております。その骨子は、不十分ではありますが、本誌のバック・ナンバーにございますので、ご参照下さい。

またこの点線文字のパターンは、繰り返し試行錯誤の末漕ぎ着けたものです。触知に堪え得ることを目標に、視覚的な美観に訴えるものではなく、また幾何学的な図形ともならぬよう、ボラントピアと視覚障害者との間に、幾度となく遣り取りが繰り返されました。その結果できあがりしましたが、予想と異なつて、視覚的にも大変美しいパ

ターンとなりました。実に喜ばしく思います。

この「十の画」の他、漢点字の第一基本文字とカタカナのパターンが完成しております。

他の地域の皆様で、同様の研究を試みられる方には、このHDDHDDのファイルをご提供することができます。ご参考に供していただければ幸いです。お申し出下さい。

五 定期刊行物について。

本会では、以下の刊行物を、定期的に発行しております。

☆機関誌『うか』（本誌）、活字版・テープ版。隔月、無料。

☆朝日歌壇、漢点字版、月刊、六カ月三、〇〇円。テープ版、六〇〇円。

☆朝日俳壇、漢点字版、月刊、六カ月二、四〇〇円。テープ版、六〇〇円。

☆新聞・健康記事、漢点字版、月刊、六カ月一、五〇〇円。

以上、お申し込みをお待ち申し上げます。

E-MAIL: takeshi-okada@h2.dion.ne.jp

漢点字ってどんな字？ 30

第2基本文字 その6 復習と忘れ物

ン	ヤ	ム	マ	ホ	フ	タ
欠	山	虫	立	夕	舟	谷
ン①	ヤ①	ム①	マ①	ホ①	フ①	タ①
	矢	羽		死	将	
	ヤ②	ム②		ホ②	フ②	

未 お 未 お

まず前回の復習からね。

今日はお天気もいし先にすすまないでゆつくり復習をしましょう。それに第二基本文字に忘れ物があるのよ。ごめんなさいね！三つもあったの。



未 お 志 未 志 未 志

でも「サクラ」は「桜」がいいな。

植物の名前は、カタカナで書くことが多いわね。

笹は「チ」で

竹冠の竿は

草冠の葉は「ク」

木偏の林は「キ」

木偏・草冠・竹冠をまとめた符号ね。

この形は、植物の名前の印なんだね。

(一マス目にル下がり)

ル下がり	桜	ル下	菊	ル下
		①		②

おでは、忘れ物をまとめましょう。

志 どれも第一基本文字に
関連のある文字だね。



シ
市
巾

未 音はキンで、訓は、はば。
巾偏にもなるのね。

志 市 巾に似ているんだね。

布 ぬの 帽 ボウ



帝 テイ 常 ジョウ
みかど つね・とこ

未 布は、ちよつと曲がった十と巾。

志 帝は、冠のような立と巾だね。

④⑤⑥の点
氷
冷

未 氷。音はレイで
訓は、つめたい。



志 ヲ(ニ水)は氷を表すんだね。
氷とは関係ないけど次にもすいだ。

凍 トウ
こおる・
こごえる

次 ジ
つぎ

④⑤⑥の点
火
熱

未 熱。音はネツ、訓は、あつ・い。

志 火は熱い！火に関係しているね。

未 部首の例は少ないみたい。

勢 セイ
いきおい



お もう一つ付け加えたい
字があるのよ。

二人 ええ、なあに？！

お 止の上に一を付けた字よ。

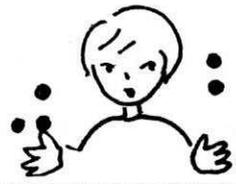
未 正？

正
セイ、シヨウ
ただしい

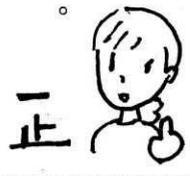
志 正は、横・縦・横・横・縦・
横：五つの線だね。
未 点字も五つの点だわ。

お 川上先生、本当は「正」は止
の近似文字にしたかったのね。でも
五つの点で表したかったのよ。

症 シヨウ
しるし
証 シヨウ
あかす



正正下



未 私も訂正したいことがあるの。
二人 ？？

未 漢点字協会の
ホームページに
川上先生の写真が
出ているのよ。

想像とだいぶ
ちがっていたので
ごめんなさい。

お これまでは偏や冠など
になる字が中心だったけど、
次回からは、旁つくりになる
漢点字をみていきましょう。

※19号より掲載の、基本文字・比較文字等
をまとめて一覧にしました。

※日本漢点字協会のホームページについては
13頁「ご報告とご案内」をご覧ください。

(作・岡田 絵・吉田)



第一基本文字

行/段	あ	い	う	え	お
あ 行		*糸 系	家 宿	*言 語	*頁 貝
か	*金	*木	草	*犬	*子
さ	都	*市	発	*食	*馬
た	*田	*竹	*土	*手	*戸
な	*人 仁	*水 氷	*力	*示	私
は	走	進 火	*女	*玉	*方
ま	*石	*耳	*車	*目	*門
や	病		行		店
ら	*月 肉	分 日	性 心	*口 囀	*十 止

第一基本文字

1マスである。
部首になる。
(『うか』19～23号)

第一基本文字の
〔近似文字〕

頁	首
貝	貝
木	未 末 本
田	由 曲
水	永
心	必

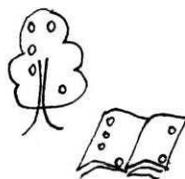
(『うか』25号)

* 印は、一文字全体が部首になる字。(木はきへん、人はにんべん。)

木 + 木 = 林 人 + 木 = 休

《同じ部首を表す二つの点字符号》

糸	と	糸	→	いとへん	細	と	絶
家	と	宿	→	うかんむり	字	と	軍
言	と	語	→	ごんべん	討	と	詩
人	と	仁	→	にんべん	何	と	佐
水	と	氷	→	さんずい	沖	と	浴



〈比較文字〉

☐を前置

大 ☐☐☐☐	中 ☐☐☐☐	小 ☐☐☐☐	
高 ☐☐☐☐	低 ☐☐☐☐	出 ☐☐☐☐	入 ☐☐☐☐
寸 ☐☐☐☐	尺 ☐☐☐☐	斤 ☐☐☐☐	貫 ☐☐☐☐
父 ☐☐☐☐	母 ☐☐☐☐		
優 ☐☐☐☐	良 ☐☐☐☐	可 ☐☐☐☐	
東 ☐☐☐☐	西 ☐☐☐☐	南 ☐☐☐☐	北 ☐☐☐☐

比較文字の近似文字

大 ☐☐☐☐	天 ☐☐☐☐
	太 ☐☐☐☐
	夫 ☐☐☐☐
低 ☐☐☐☐	氏 ☐☐☐☐
良 ☐☐☐☐	艮 ☐☐☐☐

〈漢数字〉

☐ (漢数符) を前置

百 ☐☐☐☐	千 ☐☐☐☐	万 ☐☐☐☐	億 ☐☐☐☐	兆 ☐☐☐☐
甲 ☐☐☐☐	乙 ☐☐☐☐	丙 ☐☐☐☐	丁 ☐☐☐☐	

漢数字の近似文字

三 ☐☐☐☐	参 ☐☐☐☐
九 ☐☐☐☐	丸 ☐☐☐☐
億 ☐☐☐☐	意 ☐☐☐☐

〈発音文字〉 仮名点字の読みに始点終点

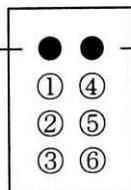
円 ☐☐☐☐ (エン)	鬼 ☐☐☐☐ (オニ)
告 ☐☐☐☐ (コク)	事 ☐☐☐☐ (コト)
生 ☐☐☐☐ (セイ)	争 ☐☐☐☐ (ソー)
対 ☐☐☐☐ (タイ)	拝 ☐☐☐☐ (ハイ)
反 ☐☐☐☐ (ハン)	民 ☐☐☐☐ (ミン)

比較文字『うか』 2 2号
漢数字『うか』 2 3号
発音文字『うか』 2 5号
近似文字『うか』 2 5号

〔近似文字〕：形の似ている漢字。

1マス目に①②③のいずれかの1点、
または2マス目に④⑤⑥のいずれかの
1点が付く。(どちらかの端に1点。)

始点



終点

第二基本文字

ニマスでできている。部首になる。
ニマス目に①②③のいずれかの点が付いている。

㊦ ㊧ Δ才 Δカ Δコ サ Δシ シ ス Δセ ソ Δタ チ ツ ト ㊨ ノ ハ ㊩ Δフ ヘ Δへ Δホ Δマ ミ Δム メ モ	<宿> <学> <頁> <金> <子> <都> <市> <発> <食> <馬> <田> <竹> <土> <戸> <氷> <示> <私> <走> <火> <女> <玉> <方> <石> <耳> <車> <目> <門>	写 (㇀、かんむり) 愛 光 文 (かんむり) 君 川 工 陸 (邑阜) 色 巾 (巾偏) 冬 罪 虎 (㇀久网虎、かしら) 鳥 魚 酉 牛 羊 豚 (牛羊豕豕、動物) 谷 雨 (竹雨、かんむり) 土 (土土) 居 老 (戸屍老、かんむり) 冷 (㇀、にすい) 衣 (示衣) 米 (禾米) 延 支 遊 (走支進、にょう) 熱 舟 王 主 (玉王主) 将 夕 死 立 身 足 (耳身足) 虫 羽 自 (目自) 氣 包 区 (門气㇀、かまえ)	<h3 style="text-align: center; margin: 0;">6つの色</h3> 赤 黒 黄 青 緑 紫
---	---	---	---

△ヤ	<病>	山	矢
△ユ	<行>	弓	
ヨ	<店>	原	(广厂、たれ)
リ	<分>	今	(八人、かしら)
	<日>	白	(日白)
△	<心>	桜	菊
	<困>	我	式 用 (口戈、かまえ)
△ン	<止>	欠	



〈 〉 は、第一基本文字。

△ 印は、第一基本文字と関連の薄い漢点字。

無印は、第一基本文字と関連した漢点字。

第二基本文字の近似文字

第二基本文字	近似文字
写	与
冬	久
酉	酋
牛	午
豚	象

第二基本文字	近似文字
雨	両
老	考
弓	引
舟	丹
自	面

第二基本文字	近似文字
包	句
区	凶
白	旧
我	或
用	角

(第二基本文字 『うか』 26号～31号)

せつれい われ
雪嶺と吾との間さくら満つ



細見 綾子
こほり こと

のりくら しゅんせい
乗鞍のかなた春星かぎりなし



まえだ くら
前田 普羅
まへだ くら

か
春の日やあの世くの世と馬車を駆り



なかむら しのこ
中村 苑子
なかむら しのこ

(「歳時記」より)



編集後記

例年よりも暖かいと思っていました。早い春の訪れに戸惑いも隠せません。卒業式に桜が……!!。この陽気で庭の花も重なりあうように、元氣いっぱい咲いています。

ある日同僚と、久しぶりに飲んだ時の話です。

駅までバイクを利用する彼女は、チョツとそこまでのつもりで路上駐車をしました。戻ってみるとバイクがありません。「やられた!」。路上には撤去時間と保管先の表示が。「迷惑駐車をして、違反をした私が悪いのは十分承知、でも何故、私のだけ?。」と思ったそうです。

バイクを引き取りに行った時に、質問をしたそうです。すると「タイヤが点字ブロックの上に乗っていたので、早急に撤去しました。」と言われたそうです。

その時もブロック以外の所には、何台もの車があったそうです。私もその場所を通り、駅に向かって歩いていますが、話を聞くまでは、点字ブロックがあることすら気が付きませんでした。

今も点字ブロックの周りには、自転車・バイクが乱雑に置いてあり、ぶつからないように体を横にしながら通る状態です。その後、彼女は罰金を支払ったそうです。

安全に歩けない点字ブロックのバリア・フリーとは、首をかしげる話です。

(彼女はその後、駐輪場に止めています。名誉のために。)
今回の発行は六月十五日です。 宇田川 幸子

※本誌(活字版・テープ版・ディスク版)の無断転載はかたくお断りします。 表紙絵 岡 稲子

入力マニュアル（4）

8. 「 ` 」 （アクサングラフ）

アクサングラフは、通常文字や記号としては使われませんので、E I B R K では、特殊な使い方をすることにしました。

「 ` 」 （212E）の使い方には二通りあります。

（1）ルビ符 

従来の仮名体系の点字ではルビという考え方はありませんでしたが、漢点字の文では、どうしても必要になりました。

- ①ルビは、「 ` 」とスペースで囲みます。ルビの対象となる文字（主に漢字）の後ろに、「 ` 」を入れて振り仮名を書き、スペースで終わります。「 ` 」は、漢点字の終点と同じ7の点に変換されます。

東京 ` とうきょう から北京 ` ペキン まで

- 【注】ルビでは、「東京^{とうきょう}」のように、「やゆよ」など拗音の小さな字を書き分けないことがあります。現代仮名遣いで表記されている場合は、小さい文字に替えて表記を統一してください。

- ②ルビの後ろに「。、」または括弧の閉じの類が来る場合は、スペースを省略します。

雨、雪、霰 ` あられ、霰 ` みぞれ、雹 ` ひょう。

『徒然草 ` つれづれぐさ』（吉田兼好 ` けんこう）

- ③ルビの終わりのスペースは、変換時には半角の「*B」に変わります。入力時に半角で「*B」を入れても構いません。この「*B」は、行頭に来た場合にも前詰めされないスペースです。

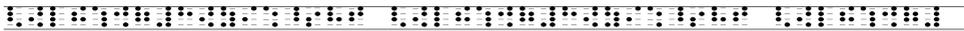
（2）数符、外字符、カタカナ符の付加

点字では、数字・外字（アルファベットなど）を、数符・外字符という符号を前置することで表します。また、漢点字の文では、カタカナを、カタカナ符（）で囲んであらわします。

- ①数符  （漢数符は  ）

- a) 数字は、算用数字、漢数字ともに、数値を表す場合、一連の数字に数符・漢数符をその先頭に前置して表します。

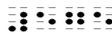
1, 2 3 4. 5 



一、二三四．五 

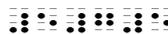
b) 「ごしちご」や「しちごさん」と読む場合

a) の表記では先頭に数符 (⠼ または ⠠) が1つだけ付いて

5 7 5  (ごひゃくななじゅうご)

七五三  (ななひゃくごじゅうさん)

と、読むことになります。そこで、数字の間に「`」を入れて区切ります。この場合「`」は、数符 (⠼)、あるいは漢数符 (⠤) に変換されて前後の数字を区切ります。

5 ` 7 ` 5  (ごしちご)

七 ` 五 ` 三  (しちごさん)

c) 「.」は墨字ではピリオド・小数点、何れも同じ記号ですが、点字では異なった記号になります。そこで、「.」の後ろに数字が続いていて、それをピリオドとして表したい場合、後ろの数字との間に「`」を入れて下さい。

p. ` 5 0 V o l . ` 3

2 0 0 2 . ` 4 . ` 1 8 .

二百三十四. ` 五

【注】「二百三十四. ` 五」は、「百、十」という位取りの文字があります。そこで、「.」も、区切りを付けるためにピリオドとします。(『うか』28号、数字の入力の項参照)

【注】「`」を添付するか否かは、以下のように判断します。

「`」を付けない場合：数値、番号。

2 3 人 (にじゅうさんにん)

〇 - 一五七 (オウ・いちごうなな)

「`」を付ける場合：数字を単独に読むもの (番号は除く)

2 ` 3 人 二 ` 三人 (にさんにん)

三 ` 四郎 会津八 ` 一

②外文字符

a) アルファベットは、日本語文のなかでは、外文字符  を前置して表します。一連の文字列には、変換時に外文字符が一つ前置されます。

a b c	A b c	A B C
		

外文字符  が付いた後、大文字の前には大文字  が1個、大文字が2個以上続く場合は大文字  が2個  前置されます。

- b) アルファベットを一つ一つ区切りたい場合や、「&」の後ろのアルファベットには、その間に「`」を入れて下さい。

点A ` B ` C 点 ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ
Q & ` A ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ

- c) 「 “ ” 」や「¥e ¥e」で囲まれた引用の部分では、外文字は省略されます。その中に単語でなく、文字である字がある時、外文字 ㄩ を字母符 (letter sign) として用います。その場合、その文字に「`」を前置して下さい。

“ J o h n ` F . K e n n e d y ”
¥e J o h n ` F . K e n n e d y ¥e

「 “ ” 」や「¥e ¥e」の中では、最初の文字にも「`」を前置して、文字であることを示して下さい。

“ ` A t o ` Z ”
“ ` U . ` S . P r e s i d e n t ”
¥e ` A t o ` Z ¥e
¥e ` U . ` S . P r e s i d e n t ¥e

- d) 略称が「U・S・A」のように「・」で区切られている場合、「・」を他の記号に読み替えないで省略します。そしてその場所に、「`」を入れて下さい。

U ` S ` A → ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ ㄩ

③カタカナ符 ㄩ

漢点字の文の中では、ひらがなとカタカナを区別しています。カタカナは、「ㄩ ㄩ」の符号で囲んで表します。

- a) 「・」や「-」は、カタカナの単語の中に含まれることが多くあります。この場合は、そのまま入力して下さい。

ユナイテッド・ステイツ・オブ・アメリカ
ㄩユナイテッド・ステイツ・オブ・アメリカㄩ
ロード・アイランド
ㄩロード・アイランドㄩ

- b) カタカナの間に「、」や「。」があつて、区切りを付けている場合は、そのまま入力して下さい。

アメリカ、イギリス、ソ連
ㄩアメリカㄩ、ㄩイギリスㄩ、ㄩソ連ㄩ

- c) 一つの単語ではなく、別々の単語を「・」で区切る場合、「・」の前に「`」を入れて下さい。

アメリカ`・イギリス`・ソ連
☺☺アメリカ☺☺・☺☺イギリス☺☺・☺☺ソ☺☺連

「`」を付けないと、カタカナ符は以下のように付きます。

☺☺アメリカ・イギリス・ソ☺☺連

- d) カタカナにつづけて括弧があり、その中の先頭がカタカナの場合は、括弧の前に「`」を入れて下さい。

ディオニソス` (バッカス)
☺☺ディオニソス☺☺ (☺☺バッカス☺☺)
エディット・ピアフ` (シャンソン歌手)
☺☺エディット・ピアフ☺☺ (☺☺シャンソン☺☺歌手)

「`」を付けないと、カタカナ符は以下のように付きます。

☺☺ディオニソス (バッカス☺☺)
☺☺エディット・ピアフ (シャンソン☺☺歌手)

- e) d) と同様、カタカナとカタカナの間に以下の記号がある場合、その記号と前のカタカナの間に「`」を入れて下さい。

… … → ← ↑ ↓ — / \ ~
% & ¥ \$ ° ' " °C ¢ £
mm cm km mg kg cc m² KK

ロンドン` → パリ` → ローマ → 東京
☺☺ロンドン☺☺ → ☺☺パリ☺☺ → ☺☺ローマ☺☺ → 東京
ア` ~ オまで
☺☺ア☺☺ ~ ☺☺オ☺☺まで

「`」を付けないと、カタカナ符は以下のように付きます。

☺☺ロンドン → パリ → ローマ☺☺ → 東京
☺☺ア ~ オ☺☺まで

- f) 原則として、「= * + - < > ※ ± × ÷ ≠ ≤ ≥」は、両側に文字がある場合、その間にスペースが必要です。その場合は「`」を入れてはいけません。

リバプール = イングランド北西部
(記号類、前号掲載、参照)